

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：13902

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17417

研究課題名(和文) 専門学校から仕事への移行に関する社会学的研究

研究課題名(英文) A sociological study on transition from vocational school to work

研究代表者

片山 悠樹 (Yuki, Katayama)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：40509882

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：ひとつ目は、職業教育における知識の性格である。保育者養成系専門学校では学問的知識を基盤に知識が構築される一方、工業系専門学校では市場の影響を受けていた。具体的には、保育者養成系においては、「子ども理解」という保育学領域の専門性が保育者養成系専門学校の知識の正当性の基盤となっていた。一方、工業系専門学校では、消費者への対応が念頭に置かれ、市場の影響の一端がうかがえた。ふたつ目は、能力形成である。保育者養成系専門学校では、「子ども理解」によって能力の自己認識に差異が生じていた。一方で、工業系専門学校では消費者重視の市場の影響を受け、学生は、技能だけではなく、説明能力を獲得していると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、教育領域の研究のなかで看過されがちであった専門学校に焦点をあて、その教育機能を検証した点である。その際、職業教育における知識の性格として、「学術的知識」/「市場」という知識の2つの性格を応用し、アプローチした。専門学校は学科構成や修学年限が多様であるため、アプローチが難しかったが、本研究の成果はそうした状況を打破するための一助になる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：We analyzed questionnaire surveys and interviews of special training school (senmon-gakko) students and found the following two point. Firstly, we pointed out how knowledge in vocational education is recontextualized. Specifically, in childcare training schools, academic subjects("understanding of children") are the basis for the legitimacy of knowledge. On the other hand, in the technical schools, the framing of knowledge is partly determined by the influence of the market.

Secondly, we discuss about how abilities are formed. At the childcare schools, there was a difference in the self-perception of abilities depending on the "understanding of children". On the other hand, technical training programs were influenced by the consumer-oriented market, and students were not only acquired skills but also ability of explaining to customers.

研究分野：教育社会学

キーワード：職業教育 能力形成 専門学校

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

教育研究にとって、「能力」は重要なテーマであり、論点の多い問題でもある。それゆえ、様々な角度からアプローチされてきたが、2000年代前後から、「キー・コンピテンシー」、「21世紀スキル」、「数学的/科学的リテラシー」、「社会人基礎力」や「人間力」など、これまでとは異なるかたちで能力が表現され、政策提言がなされている。様々なレトリックが採用され混乱気味にもみえる能力概念であるが、グローバルな経済社会への対応への必要性が指摘されている。確かに、OECDや「21世紀スキル」プロジェクトの報告書を一瞥すると、「知識経済」への移行という社会観のもと、高スキル人材や知識勤労者の形成/供給=教育のさらなる重要性という枠組みが確認できる(Levy & Murnane 2004)。こうした枠組みは新しいものではないが、OECDは「知識経済」を押し出しながら、人材供給としての教育の役割を指摘している(OECD 1996)。こうしたなか、教育実践領域においては、社会の変化に対してどのように認識し、いかなる能力の育成を目指しているのだろうか。こうした関心から、本研究では、教育のなかでも職業教育に焦点をあて、教育実践領域で、いかなる能力が必要と想定されているのか、またどういったプロセスで形成されているのかを検討する。本研究のめざすところは、抽象的な「新しい能力」の受容でなく、「新しい能力」の批判でもない。特定の文脈のもと、「新しい能力」がいかに位置づけられ形成されるのか、そして「新しい能力」と従来型の能力は相反するのか、これについて専門学校を事例に議論することである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、専門学校(専修学校専門課程)に入学した若者を対象に、卒業後1年まで追跡し、専門学校の教育機能を理解することである。その意図は次の2つに集約される。

1) 専門学校における職業教育と能力形成

1976年に制度化された専門学校は、その当初から「職業技術習得の機関」(倉内 1980)と位置づけられ、高校や大学などがカバーしていない市場(理容師・美容師など)にも人材を輩出するなど、多様なニーズに応える職業教育機関として発展してきた(韓 1996)。近年でも、「資格教育」の主流化、職業能力開発における専門学校の活用という提言や「高度専門士」の創設など、職業教育の多様化・高度化は一層の進展をみせている(塚原 2005)。ただし、こうした評価はマクロデータ(『学校基本調査』)や政策文書によるものであり、実態については不透明な部分も多い。

そのため本研究では、職業教育における「専門性」構築と能力形成のプロセス(片山 2016)という視点を応用し、専門学校における知識の正当性の基盤と、能力形成プロセスを検証する。専門学校の知識は何を基盤として構築されているのか、また学生たちは何を学び、職業能力を獲得しているのか、これらを具体的に描き出す。

2) 専門学校からの移行プロセス

上記以外に、職業教育の機能を理解するうえでもうひとつ重要な視点がある。それは、「移行プロセス」である。

制度化当初、専門学校は特定の企業との間に就職ルートを築いていなかったが、それ以降どのような展開をみせているのかはほとんど議論されていない。教育社会学では職業移行に大きな関心が寄せられてきたことを思えば、こうした状況は「奇妙」といえる。マクロデータから概要をみると、専門学校からの移行先は中小企業が多く、大企業中心の日本型雇用慣行があてはまりにくい可能性がある(塚原 2005)。専門学校の学生たちは「標準的」ではない移行を経験している可能性が推察されるものの、いまだ明らかにされていない。こうした関心から、本研究では専門学校からの移行プロセスを検証する。

3. 研究の方法

能力形成や移行の動態をできるだけ正確に理解するため、本研究は追跡調査を実施した。それと並行して、いく人かの対象者を抽出しインタビュー調査を実施した。アンケート調査にインタビュー調査を織り交ぜることで、アンケート調査だけでは理解できない実態を明らかにした。

在学中調査

- 第1回アンケート調査(2017年4~5月)
- 第2回アンケート調査(2017年10~11月)
- 第3回アンケート調査(2018年6~9月)
- 第4回アンケート調査(2019年1~2月)
- 第1回インタビュー調査(2017年9~11月)
- 第2回インタビュー調査(2018年9~12月)

卒業後調査

- 第3回インタビュー調査(2020年1~2月)
- 第5回アンケート調査(2020年2月~)

4. 研究成果

主な研究成果は2つである。

ひとつ目は、職業教育における知識の性格である。

保育者養成系専門学校では学問的知識を基盤に知識が構築される一方、工業系専門学校では市場の影響を受けていた (Bennett 2007)。具体的には、保育者養成系においては、教科書の記述を検討した結果、「子ども理解」 - 「省察」 - 「保育者の自己理解」という関連が確認され、「子ども理解」という保育学領域の専門性が、保育者養成系専門学校の知識の正当性の基盤となっていた。一方、工業系専門学校では、消費者への対応を念頭とした「コミュニケーション能力」などが重視され、市場の影響の一端がうかがえた。

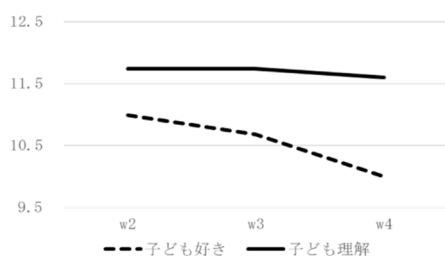
ふたつ目は、上記の知識の性格にもとづいた能力形成である。

保育者養成系専門学校では、「子ども理解」によって能力の自己認識に差異が生じていた。具体的には、アンケート調査の回答を「子ども好き」を「子ども理解」と暫定的にまとめ、これらと能力の自己認識(「子どもの家庭状況を理解する」、「子どもの障害に応じた支援をする」、「子どもの個性を見抜き、集団の中で主体的に取り組めるよう支援する」、「子どもの成長・発達を促すような環境づくりをする」)に対する自信)との関連を検討した。その結果、「子ども好き」と「子ども理解」では一定の違いが観察された(図1)。

一方で、工業系専門学校では技能だけでなく、お客からの信頼を得ることを意識した指導が行われており、その結果、お客に対する説明能力の向上が観察された。具体的には、説明能力(「点検結果、故障原因、不具合(異常)現象を順序立てて説明する」、「電装の作動や構造をきちんと説明する」、「エンジンの構造をきちんと説明する」、基本的な技能能力については「ドラムブレーキの分解・組立を素早く行う」、「ドラムブレーキの分解・組立作業中に部品を落とさない」)に対する自信と、技能能力(「ドラムブレーキの分解・組立を素早く行う」)との関連を検討した。その結果が図2である(説明能力は3つの指標の合計)。消費者重視の市場の影響を受け、工業系専門学校の学生は、技能だけではなく、説明能力を獲得していると考えられる。

その他にも、教員へのインタビューデータをもとに、専門学校から職業への移行の特徴を検討した。

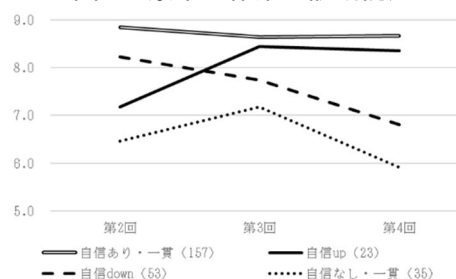
図1 能力観の変化(女性)



能力観の指標(とても自信がある=4点~まったく自信がない=1点)

子どもの家庭状況を理解/子どもの障害に応じた支援/子どもの個性を見抜き、集団の中で主体的に取り組めるよう支援
子どもの成長・発達を促す環境づくり

図2 素早い作業×説明能力



()は人数 縦軸: 3つの説明能力の合計(故障の説明、電装の説明、エンジンの説明)

「自信あり・一貫」: 第2回および第4回で「自信あり」/「自信up」: 第2回=「自信なし」 第4回=「自信あり」
「自信down」: 第2回=「自信あり」 第4回=「自信なし」/
「自信なし・一貫」: 第2回および第4回で「自信なし」

<参考文献>

- Bennett, M. 2007 “Vocational Knowledge and Vocational Pedagogy” in Young, M. and Gamble, J.(ed.), Knowledge Curriculum and Qualifications for South American Further Education, Human Sciences Research Council, pp.143-157.
- 韓民 1996、『現代日本の専門学校 - 高等職業教育の意義と課題』玉川大学出版部。
- 片山悠樹 2016、『「ものづくり」と職業教育 - 工業高校と仕事のつながり方』岩波書店。
- 倉内史郎 1980、「専修学校の役割の検討」『教育学研究』47(4) pp.289-297。
- Levy, F. & Murnane, R. J., 2004, *The New Division of Labor: How Computers Are Creating the Next Job Market*, Princeton University Press.
- 松下佳代編、2010、『<新しい能力>は教育を変えるか - 学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房。
- OECD., 1996, *The Knowledge-Based Economy*.
- 塚原修一 2005、「専門学校の新展開と役割」『日本労働研究雑誌』47(9) pp.70-80。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 内田康弘、片山悠樹、都島梨紗、尾川満宏	4. 巻 第3号
2. 論文標題 専門学校への進学と将来展望 - 専門学校から職業への移行研究の基礎分析 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職センター紀要	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 尾川満宏・都島梨紗・片山悠樹	4. 巻 2
2. 論文標題 専門学校設置状況と地域特性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 片山悠樹
2. 発表標題 保育系専門学校における「専門性」とキャリア展望
3. 学会等名 日本子ども社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田康弘
2. 発表標題 定時制・通信制高校出身の専門学生と学校生活
3. 学会等名 日本子ども社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾川満宏
2. 発表標題 工業系女子の研究 - 政策・業界動向と職業教育・職業選択をめぐる女性の経験
3. 学会等名 日本子ども社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾川満宏
2. 発表標題 専門学校設置状況の分析
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考